

2013年度 「生協大会～活動交流会～」を開催しました

11月14日(木)ドーンセンター（府立男女共同参画・青少年センター）7階ホールおよび1階パフォーマンススペースにて「2013年度生協大会～活動交流会～」を開催し、21会員生協等から333名が参加しました。

今年の生協大会は、「地域によりそう生協に」をテーマに、安心して暮らせる地域社会づくりへの生協の役割やこれからの課題について考え合うこと、会員生協の取り組み事例を学び交流することを目的に開催しました。

生協エスコープ大阪の南整理事の司会により開会し、惣宇利会長理事からの挨拶の後、メインの講演です。

講演は、桃山学院大学の松端克文（まつのはな かつふみ）教授を講師に「新しい地域福祉と生協への期待」と題してお話いただきました。

松端教授からユーモアを交えた語りから「地域福祉は単に地域のなかで福祉課題を抱える住民の課題解決を図るというだけではなく、あらたな質の地域を形成していく内発性（住民の主体性）を基本要件として、地域を舞台に（地域性）、そこで暮らす住民自身が私的な利害を超えて共同して公共的な課題に取り組むことで（共同性～公共性）、より暮らしていきやすいような地域社会にしていくこと、あるいはそのような地域に変えていくこと（改革性）である」「住民と行政との協働によるあらたな公共の創造。協働とは立場の異なる人、組織・団体・機関が共通の目標に向かって協力して活動すること」「活動の結束型（bonding型：内向きの指向をもち、等質な集団を強化していく反面、排他的になりやすい傾向がある）から、橋渡し型（Bridging型：外部の異なる集団との連携において優れており、結束型の社会関係資本がより狭い方向に向かうのとは対照的に、より互酬性を生み出すことができるとされている）へ」「福祉ニーズの発見・把握におけるネットワーキングの必要性」「無縁社会は“この私”が“この私”



松端（まつのはな）教授

として認められず、尊厳をもったひとりの人間として扱われない社会。“この私”を“この私”にしてくれる他者との関係が形成されないとすれば、それはとても不幸なこと。だとすれば“この私”を“この私”にしてくれる他者との関係の形成、すなわち他者との「縁」のある社会にしていくことは他人事ではなく“この私”にとっても重要な課題となるはず」等のお話がありました。

会員生協からの活動報告では、医療生協かわち野生協より「住み続けられるまちにするために生協でできること」として、高齢者にやさしいまちづくりの取り組みについて、おおさかパルコプより「地域により子育て支援活動」として、子育てサポートステーションの取り組みについて、大阪いずみ市民生協から「はたらく喜びくらしに笑顔」として、障がい者の雇用促進と自立支援事業の取り組みについて報告いただきました。

午後からは会場を変えて展示による活動報告を行いました。7会員（大阪いずみ市民、大阪よどがわ市民、おおさかパルコプ、コープこうべ、コープ自然派ピュア大阪、生活クラブ生協大阪、全労済）と大阪ユニセフ協会からの出展で交流が行われました。



医療生協かわち野、おおさかパルコプ、大阪いずみ市民生協から活動報告



展示会場での交流

平成25年度 大阪府・泉北地域3市1町合同防災訓練に参加しました

大阪府生協連は、阪神・淡路大震災での被災地支援の活動による教訓から、1997年に大阪府と「災害時における応急物資供給等に関する協定書」を締結しています。協定にもとづき、様々な防災・減災の活動をすすめています。その一つに大阪府の「防災訓練」に毎年参加し、府民の防災意識の向上等に取り組んでいます。

今年度の訓練は大阪府と泉北地域3市1町（泉大津市、高石市、和泉市、忠岡町）の合同により、11月10日(日)、泉大津市フェニックスで開催されました。

大阪府生協連は、展示啓発コーナーに参加しました。当日は強風と時折降る雨と悪天候で、予定していた生協の震災支援活動を紹介したタペストリーは掲示出来ず、パソコンを使用した地震体験クイズと防災用品の展示を行いました。地震体験クイズの参加者には、アルミ製防寒ブランケットの粗品と、日本生協連が作成した防災マップづくりのパンフレットを配布しました。訓練には地域の自主防災組織からの参加が多くあり防災マップ作りのパンフレットは「参考になる」と評判でした。



子ども達もクイズにチャレンジ



大阪府知事の視察



強風の中、ヘリコプターによる救助訓練



タペストリーも少しだけトラックの荷台に掲示

“女だから”“男だから”はもうやめよう!

私が思う男女共同参画

生活クラブ生協大阪
理事長 浅井 由起子



男女共同参画、私はあまり考えてこなかったテーマかもしれませんが。女性が差別されているとは感じず過ごした学生時代。男女雇用機会均等法が施行された年あたり？に就職しましたが、私が選んだのはそれとは関係のない女性ばかりの職場でした。職場が関東で、結婚後に住むのが大阪であったために何の疑問もなく結婚を機に退職。生協活動にかかわるようになってからも組合員理事はみな女性でしたが当たり前と思っていました。しかしこれらは刷り込まれた考えだったのだ、と今頃気づきました。結婚する時に女性が仕事を辞めて男性に養ってもらう、生協活動を女性がするのは家事をするのが女性なのだから当たり前、など……男性はこうあるべき、女性はこうあるべき、とかなり型にはめて考えていました。

気が付いてみると、世の中は私が子供のころとかなり変わってきています。ランドセルは赤を選ぶ男の子がいるとか、学校の名簿は男女混ぜてあいうえお順にしているとか。

昔は、ほとんどが男性だった医師の女性の割合が増え、看護婦さんとは言わず看護師さんと呼ぶようになり。そういえば、男性と相場が決まっていたパイロットも、女性が目指すドラマが放映されているようです。私たちの組合員活動を見ても、土曜日開催の企画には奥さんと一緒に来る男性が多くなってきています。イクメンばやりだからでしょうか。男女共同参画から言えば、イクメンと言ってことさら強調することはおかしいのだけれど、社会がこのように少しずつ変化しているのは、いろんな場面で問題点が指摘されて、各団体、業界が男女共同参画について考えるようになってきたからなのでしょう。このように少しずつ情報発信して変えていくことが大事だと思います。子どもの数が増えない日本で、これからも経済成長することを考えると女性の力は欠かせません。男性だから、女性だからではなく、一人の人間としてどのように社会に貢献できるかを考え、そのような人材を育てなくてはならないと社会が気づいてきたのだと思います。

社会の問題を解決するための生活協同組合にも、今より多くの女性職員や男性の組合員理事が誕生してほしいものです。そうすれば、もっと多角的なものを見方ができ、社会に役立つ存在になれるのではないのでしょうか。

スケジュール

1月

- 14日 全国政策討論集会（～15日）
- 23日 第4回理事会
- 23日 大阪府生協連60周年記念講演会・レセプション
- 27日 第3回組織活動委員会
- 30日 関西地連第4回運営委員会
- 30日 日本生協連第4回府県連活動推進会議

2月

- 1日 COP19報告会
- 12日 近畿ブロック地方消費者グループ・フォーラム in 奈良
- 13日 第4回大規模災害対策協議会
- 14日 第40回豊かな環境づくり大阪府民会議総会
- 18日 第3回おおさかスマートエネルギー協議会
- 19日 第1回文楽・コンサート実行委員会

3月

- 6日 第4回ジェンダーフォーラム協議会・学習講演会
- 12日 第3回近畿地区生協府県連協議会
- 17日 会報 No309発行
- 17日 第1回生協大会実行員会
- 20日 第5回理事会